

第3期第5回（平成25年度第5回）帯広市産業振興会議

議事録要旨

日時：平成26年3月14日（金）15:00～

場所：帯広市役所庁舎10階第6会議室

I. 開 会

II. 会 長 挨 拶

III. 協 議

1. 帯広市産業経済実態調査報告書案たたき台について

事務局より、配付資料に基づき帯広市産業経済実態調査報告書案について説明があった。説明後、意見交換を行った。

【1. 中小企業の経営基盤の強化】

論点1-1について

（委員）

「情報を取りに来たら教える」のではなく、中小企業に知ってもらう具体策が論点だと思う。

（委員）

情報はいろいろある。金融関係では周知は充分と感じる。利用する意欲があれば情報へのアクセスは難しくないのではないかと感じる。

（委員）

発信する側は結構発信をしている。それが伝わっているのかという点と受け取る側の問題とあるのを考えなければいけない。市だけの支援ではないので、絞込みや研究をするための時間確保が難しいのではないかと感じる。その点で仮説は適切かもしれない。他の側面もないか考えるべき。

（委員）

商工会議所の利子補給が終了したあとの制度のつなぎについて、市が何とかするなど、行政と産業支援機関の連携についても深く考えるべき。

（委員）

企業と顧客のコミュニケーションも重要。客が求めているサービスは経営支援のあり方に関わる。

（委員）

今ある支援をどのように改善していくのかという側面と、新しい制度としてどのようなものが必要なのかを考えていく必要がある。市の発信の仕方を考える必要もあると思う。行政としてどういうことが重要なのか、事業者のニーズに沿って随時制度を見直し、新設する必要がある。

(委員)

コミュニケーションという言葉の具体性がない。コミュニケーションの内容についてつめていくことで、議論の幅が広がる。

論点 1-2 について

(委員)

「変わらない企業＝生き残れない企業」をどう考えるか。異業種参入や新規事業も良いが、本業の改善が重要だと思う。

(委員)

創業に関しての考察がない部分が疑問。

(委員)

企業の待遇改善に加えて、人材育成が重要。

(委員)

建設業だけの問題ではなく、すべての業種に関わる問題。

(委員)

個別企業の仕事の多様化も必要だが、企業間の連携による多様な取り組みについても仮設に含め、論点を広げることにはできないか。

論点 1-3 について

(委員)

中心市街地活性化協議会の活動を踏まえて議論する必要がある。

(委員)

ターゲット（年齢層、客層）を絞って議論することが重要。どういった人に活用してもらおう商店街にするのかを明確にすることが支援につながる。

(委員)

観光と絡めて考える必要がある。昼と夜では求められるものが違う中でどのように考えていくか。商店街は個店の集まりだから、個店をどうするかという考えに加え、商店街としての個性・特色をどう作っていくか、そこにどう支援できるのかという視点が重要。

【2. 産業人・担い手の育成】

論点 2-1 について

(委員)

小中高など児童や生徒の段階での教育で、地元地域のよさや特徴について考えてもらう機会の創出が必要ではないか。

(委員)

同友会やとちかち事情報協議会の合同企業説明会への参加学生数が大きく減少している。大手の雇用増や学生の大手志向が指摘されているなか、Uターン、Iターンする学生が減っている。また、大手が大学生のインターンシップを通じた青田買いのようなことを行っている。論点については良いと思うが、こうした最新の状況を踏まえながら支援策を考えたい。

(委員)

最終的な目標は雇用増に持っていかないといけない。論点については良いと思うが、今後人口減少により生産年齢人口が減る。今後高齢者や女性の活用も論点に入れる必要があるのではないか。

(委員)

企業側の状況は書いてあるとおりだが、学生側の状況についても加味すべき。企業像がうまく伝わっていない。十勝に魅力があるから働きたいのか、企業に魅力があるから働きたいと思うのか、その辺の考え方を学生に伝えていきたい。

(委員)

適切な人材確保に加え、人材定着のための育成もあわせて必要。就業前の企業理解にいつそう取り組む必要がある。一方で、企業側の体質改善も必要なかもしれない。

(委員)

従業員に対する生活の向上についての論点が大事。

(委員)

主婦を加えた議論も重要。

論点 2-2 について

(委員)

中長期的な視点を考えているのであれば学生のキャリア教育も論点に入れるべき。提言事業で作成した「ワークワーク」の継続作成についても中長期的な視点から考えるべき。

(委員)

畜大の役割をもっと話し合ったら良い。地域として大学にどういう役割を担ってほしいのか、どういう人材育成をしてほしいのかについての論議が必要。

(委員)

人材育成も大事だが、適性も重要。人材育成だけを無理やり進めても良くない。

【3. ものづくり産業の活性化】

論点 3-1 について

(委員)

成功事例をどのように数多く伝えて、希望を見出せるか？各企業の既成概念やマンネリの打破、ムード作りが大切。

(委員)

物流について、広尾港の活用、船の活用についてもっと周知すれば、大きな価値を見出すのではないか。

(委員)

産学官連携も重要だが、先行企業が同業種の事業を教えるといった、産産の連携についても重要。産と産の連携により取引が広がる可能性もある。

(委員)

数多くチャレンジの「数多く」というところが非常に重要。

論点3-2について

(委員)

道外や海外への物流コストを安くするために、仕入れの多い企業と出荷の多い企業の異業種マッチングができそうだが接点がなさそう。

(委員)

アンケートの結果は当たり前の結果。仮設が飛躍している。論点の幅が広いので、論点を絞るか分けたほうが良い。

(委員)

たとえば輸送費に絞って具体的に考えたほうがまとまりやすい。

(委員)

地域ブランドの形成が出荷額の増加にどうつながるのか。ブランドは企業が作るのではなく、十勝らしさを貫くことで得られるもの。

論点3-3について

(委員)

自由記述とヒアリングだけから論点を拾ってきている。個別性が強い話を取り上げられている中で論点を絞ると、ずれてしまうのでは。自由記述とヒアリングだけから論点を拾っているものは注意して議論する必要がある。

(委員)

農林水産物だけでなく、もっと地域資源を活用するようなことを仮設に含めたほうが良い。たとえば陸海空、宇宙なども含め、農林水産物以外の具体的な視点も必要。

(委員)

数年前に管内飲食店を対象にアンケート調査をした際も、地場産品は高いという結果が得られた。農協等がスポット的な取引で値段を下げることは困難かと思われるが、間に卸などが入ることで長期安定的な取引を実現し、価格を抑えて仕入れる方策について議論できれば面白い。

(委員)

地域資源を生かす仕組みをどう作るかが重要。何が課題なのかがもっと浮き彫りになるような議論が必要。

(委員)

依存という表現は適切か。「依存しているもののうち」と限定しているが、新たに生み出していくということもあるため、この視点も論点に加えたほうが良いのでは。

地場産の価格が高いとあったが、外の人に高く買ってもらえるのは良いことであり、フードバレーとかちというならば、食に関してはお金をかける、高くても良いものがたくさんあるという戦略も考えられるのではないか。価格だけでなく質を考えるときちんと異論したいテーマ。

【4. 産業基盤の強化】

論点4-1について

(委員)

どれも、どこの街でも取り組んでいる既存のアイデアでは、厳しいと思う。もっと刺激的な提案や規制緩和が必要。

(委員)

地熱やバイオマスなど、太陽光以外のエネルギーも可能性がある。企業立地を促進するなかで、具体的なアプローチの仕方について議論したい。ITやコールセンターなど、今までと違う切り口についても考える必要がある。

(委員)

企業誘致について議論するほど多くの意見が出たのか。そもそも産業振興会議はこの地域の産業をどうするかを考えるべき。論点に含むこと自体どうかと感じている。

(委員)

地元企業の設備投資に目を向けるべき。中小企業は非効率な中で事業を行っている。設備投資の際の優遇処置など、そこにどう支援を行うかを議論すべき。

(委員)

以前作成した産業連関表を作った際に、中小企業が投資できないという状況が見られた。投資がしっかりできるような支援が第一。

(委員)

産業基盤の強化とは、地元企業の強化を基盤に考えていくべきで、企業誘致ありきという論点は間違いだと思う。群馬県高崎市では、商店街のリフォーム制度を作ったところ、ものすごく活用された実績があった。

(委員)

「外資」や知恵を取り込む意味で、域外企業をちゃんと誘致したほうが良い。産業基盤を強化するには、地域を開いて勝負すべき。

【5. 集客・交流産業の振興】

論点5-1について

(委員)

「金閣寺と銀閣寺と清水寺があれば観光地になる」的な考え方はずれている。そんなものは不要だし、この地にはできない。

北海道ガーデン街道は、新しい施設もメジャー施設もなくスタートしているが、連携効果やパッケージングや明確なターゲット（客や広報）に選択と集中をして発信し始めた。他の観光素材でも、イノベーションやシナジー効果を考えたい。

もう遅いかもしれないが、道の駅は総体の場所が最適だと思う。街づくり都市計画には、視座の高いコーディネーターがほしい。

観光客には、公共や民営とか行政区域なんか関係ない。

(委員)

「入り込みの増加」は人数ではなく、金額目標が大事。地域として「グローバルエッジ」がきかせながら、さまざまな人が十勝に来てお金を落としてくれる仕組みづくりが必要

(委員)

拠点を作るにしても、コストに見合う満足が得られなければ利用されない。

(委員)

観光客ではなく、交流人口を増やすという切り口のほうがいいのでは。

(委員)

拠点づくりの推進という項目に入れるから縛られてしまう気がする。拠点が必要なのではなく、それぞれの機能をいかに組み合わせていくかが大事。論点 5-2 と含めて交流人口をいかに増やすかという議論のほうがあっているのでは。

(委員)

目玉として道の駅を目指す発想はズレがある。スポーツ合宿やプロモーション撮影などを含め、ビジネス的な交流人口の誘致も含めて考えるべき。

論点 5-2 について

(委員)

季節による入り込み数の安定化が最大の問題。ハイシーズンでは、宿泊や運輸も足りないが、閑散期は観光ネタも少なく宿も空室が多い。

(委員)

十勝を生かすためには、道東など他圏域との連携が不可欠。

(委員)

どうやって泊まらせるかが大事。いかに通過型観光を滞在に結びつけ、リピーターに育てていくかがポイント。

(委員)

他地域との競争の中で、宿泊コストに見合うだけのサービスや価値を提供できるかが重要。

IV. その他

(委員)

「十勝帯広が将来こんなすばらしい地域になる」といった発信が足りない。帯広市ばかりでなく、十勝全体の将来像が見える形で発信していければ、色々な場面に波及していく。そういった将来像がどこかの場面で文言に組み込まれ、夢が目標となり、具現化されていけばいいと感じている。

VI. 閉会